古樗布里

歌仙

あの蓮の花ふむ[illegible]　任子

日ゝ解[illegible]田螺の[illegible]　春来

抜る髪の[illegible]　凡鳥

[illegible]　存義

宮[illegible]月の尾[illegible]の火　龍眠

今[illegible]門番　鳥

東洋文庫蔵書

ウ 背筆のみつくく侍也　来
烏帽子もきくに年の稽古人　眠
袋のくるかやくるの花和尚　義
瓣一莖罌粟のくを掃く　来
打凡の年　小高まる城の鐘　鳥
いつゝ世の中の地くに感有　義
墨を嗅くす傳ふ筆さ　来
世を捨人の名をとゝ申社　鳥

絶えて見ぬ人ふ所地くに子　眠
大路のくに馬糞ふ山　義
杭張のくに年くに絶る椎の月　鳥
仏ものくに年くに和尚　眠
小僧凡弾瓣ふ面る露の宿　義
天秤棒をくらくに　頼　来
今時さも見さるに葵　眠
雖もさも筆之の中　鳥

西塔にまいりねおの武蔵坊　末
世をすて善つらゝの道　義
法氏が後宮むさのわりて憂　眠
如くゝとしれ月ゝ貞ゝれ　末
梅千の木の葉と拂ふ橋個帝　鳥
鳥の名ふ〳〵ゝ朝ゆゝ　眠
祇ヶ谷のかゝふ歩ゝ踏月ゝれ　義
角力ゝ墨ゝれゝゝ塔賓　末

ウ
桂再鉢のわゝきのゝふ秋の風　眠
簑わまれゝ場ゝ面ゝ　鳥
ゝ法の公ゝ代ゝふ　義
灯もほのゝふ天照ゝ地　眠
花既見ゝのゝゝ　末
大工住ゝゝゝ三月　義

新山

[illegible]　三千風

[illegible]

杉膳の吸物の匂ひし　春來

見くハしむ使者の墻雨　還窩

汐風や今ぞ[illegible]の[illegible]け　蝸石

[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]　仙水

[illegible]　旨原

ウ 河邊郡の某村に秋の九波
非人のもとにくみらのき當
つゝ病卧するに截藁ま
年代記にい愛も雪のれ多
ほ所場の松のえみ疫風尔
炭焼の目をほしうり收
七種のつゝふ風を難さわ石
海老の形式のもの作る髮ま

信濃路い事の別くき當
ほふ作りうくるのむ猛公
紙風のうゑふくるすり燒收
流ふつくる菓のうち方文容
ナ 陸奥薩摩一時ゆまる干朝箱多
武王の朝よぬりに宴尔
揭ふ人多の味のうゝ袋ま
出る宮いるもの下收

地行りの客の方を過ぎて行く程
あるべき所のように晒への口の
ほとり解かるつゝ
遠ふまきる雨後の物語
月のかゝる波の遠のふなびかず
関のうらゝ関屋もうきぬ
どん雲もうきぬ小芝居
お徳五人ばかり女離すく
公

ウ

法の月よ高くかゝる海舟
鮎に酒ふる岐阜の世間
今宵の月の太鼓が押すよう
前祝灯かゝるゝ
墨絵よりけのあるの花
吹雪れる鳥のあと

歌仙

鉦鐘の扉のかうらに花壇　專吟

はるばると登る坂口　春來

宿入の振くるまでの暮に　萬花

ちらちらと鉛を煮る月　蝸名

鉢鼠の鍋の回るを忘れて菴　末

秋の日のあく所中の夕　花

ウ 其日の天氣さて陰り斧打 石
さゝたるしるき豆陽花の元 末
多賀ふ神命のんわたるよ 花
宇ち尊いあるよ見てうち 石
てゝふ神弟のうの雄を宗 末
打りしのかよ陽るの直ちる 花
今系土主乃側をよりて穴 石
年てるのうい主こを主や 末

雄役乃年もたりて七ち森 花
居風呂の大よりく稲妻 石
法乃月鈴琴蓋生のう 末
嵐の秋乃ちゝりぐう、
ナ 量布てみ如ふ描いりう 花
おトうう布海苔とふ陳腐 石
揚らのわつわる七面 末
師函乃呂を陽て洗ふ呂 花

清原深養父

親しかりしる人を棄て　花

枕給の岩根に育もしの　末

久方の馬嶋も無きまで見　名

塩竈の浦の漕舟の綱を　末

三日月を待つ間を閑読　花

煙まぐれ薄き月の酒のわらひを　名

藤も五月のなりぬれば寺の　末

うのくらと墓蘆の月りう　花

ゥ

ゆまれぬ程の合傷　名

塩新しき雨夜の使者乃付色　末

浴衣よ人乃怖れわ釘　花

鞘んから起ふる花の色通者　名

寶ぶくしの下る草ぶく　末

歌仙

江を渡るも雲際の月の涌く秋の
敵に傳ふ葉の皮　春来
かつ車輦を出でて暮めるも　蓮谷
動かしめける中霧の脚　百太
發金のうつを見れば人の音　買明
松の小ぶ枝の江　書永

素堂

ウ 紙屋の紙の迫るなり　祇園
桜はゆるぬ山川の淵　玉帙
五文字をつれる弄かいなり　故一
四季詠をけるものの甲子　羊仲
面波の葉はそふ具なるの　春来
薄又かうれる夏葉の　蓮谷
ちふ入れ瓦ゆるき廣度院　百太
くぶる軽子の息は打ち　買田

こ酒の宿のこ花かうのまる　書永
麦かうつ活ふ雑の深さ　祇園
四月かくて月日うつる儀別貝　玉帙
都の風の教一文まる　故一
一こいわ声のおやもも太祝詞　羊仲
錫のあ振よ和の端もか　書永
居所ふ五て宝あくこる宮宮賓　故一
懲こここ中ふ去尓　玉帙

榛の木のうるとり取る法師達　蓮荼
仕りける署うらうらの月　百太
法師ようさいかぬ牛の尻　冥加
相撲とれば八角ふ割れ　紙屋
何のの博士の鳥帽子ふきく　羊羹
女とうの子なれ書てと　長来
我恋のさもふ巨燈のかまきく　百太
抑りてとうき宝れ羅刀　蓮荼

いうの蛮の糸かけ情小濃世五　長来
お人の客れ膳冒い合点　故一
ふ掉ふ掉みく境川　玉城
お鄭ふ　てとう　商　冥加
天地の情廣　四季の義　紙屋
人をとう人間の多　羊羹

歌仙

蝶子
貞宣

おもかげの初ものの秋
愛宕やまくれ行く一筆　春来
名来れ井堰の月ぞ　関島
ゆけぬる馬士の行つゝ合　龍眠
うきくさの楷の白ひもぬるゝ　五丈
わすれぬ鍬をきるうんさと　青柳

京師の、の、こ葉と拾ひ　千砂
五六年ぶりに雨の大竹　存義
わく樂や園房て俣を抑く時　素
仁男もめけ〳〵き眠る猫　関鳥
うき人の世に〳〵はなし　青柳
行燈〳〵ちらも孫をむ　五丈
さむ〳〵ろ小関の後架の風寒し　泥眠
旭〳〵　遠ち化地の目　千砂

〳〵〳〵宿屋富も秋の葉と　存義
こうろの後ゝ　青柳
去風の吹ぬ猪の鞍のみく　丈
御用のかいこめ初年　素
いく度ぬ踏れ〳〵上の頭めく　関鳥
火ゝ移る驕者の兵い附宣　泥眠
鐘きもふわ〳〵南る衣更　千砂
初色の磬ホ末〳〵深めゝ　存義

小便とぶらん神の時　素堂

鴨とめ鴨のうつるめもすき　支考

もも足も雪とうたれ都鳥　沈眠

頭巾もきめい見もまじ　園鳥

思凝を猶の人てえの裏風乳　存義

雪のしら保ぬ色とみ空の牧　千代

物鍋も同じ脇を動しく　青柳

ちらう裸も萩ま下外　存義

禅子の鰭しらく音時雨　千代

子曰　想ひ　枯　長来

雑を極の起と時もあり　青柳

ほんく釣瓶のうるい音　園鳥

山陰くに百のくに老も義　支考

ものくく鼻の下へなくく日　沈眠

歌仙

[illegible]ゆく峯の雲　兼豊

[illegible]の[illegible]のうちら　春来

[illegible]　鯉藤

[illegible]中指さし　栖鶴

[illegible]十三夜　渭北

[illegible]の境い　万年

ウ むくりの千切の中ふ赤しゝ白 拾
金那王殿の屋鋪の屋 小
いき髮ふしの川を壇結ひ 末
嶮しき西通く十月の陽藤
おやつ和阿雑加葉を低く見て 拾
毋のしゝの傘ふ御 末
いと屑や綿も切ふ花 小
仏灯佳ふ蓋を添町 拾

雨降る撥のもゝも浪宮の上 友
せゝしゝ菓子のさゝ 小
やつる船の島の日暮く 年
湯ゝとゝ迄て犬蓼ハ二寸 友
ナ 鐘のなき寺ハ塀もなき地と 末
仰つゝ衣皆しゝの 拾
わいつゝらい三葉のゝ表 小
遠藤武者も青ニ光 友

白うを地賀ふ彩ふ時雨まる　小
一點こ白と陳皮甘草　友
朝人まし〳〵みゆ　詩
ちこら宮まに関れの枝　ま
仲彼の雨のみ人のそろと　友
出いめしや親る泡盛　詩
新い如まるこの香具居　ま
音頭のせきるざるもく　小

ウ

朝鮮こいの鮒兵の年きれく　詩
つるもむしも琴弾しも　友
塩魚こいる宮まるるしりるき　小
人くいけむまに陳の舟　末
花の所鯉の皆ようけるる　詩
五日の風のいうのりうの卯　熟

哥仙

煙うすく寺の門あり紀伊ノ国　不卜

ゆく鳥眠れる一山の昏　春来

多くの枝を岩根ふるうつゝ　専澄

酬花の節を風暮ふ　友以

まぶ豆のやうに皇のうつれる　蘭舟

うつゝ赤きうつゝ　曲　南花

露の命か京の河点のうち深　羊伴
そこの新きこ葉掃りち　況
汀小判こ心懸垢のまゝ枯く　末
吟まくるる本郷の埃　裔
弓射まい曙もすま眼の下　以
待しこうつる蟬の別れ　伴
神のやうわ行く縁　苑
まふ望月の泪雨う邦　末

仮橋のうちい信濃柳　況
花の姿風炉の火ハりし物　以
疼痛ハ何うも世を捨て斗　裔
互ひ墨視の良　況
嘘のるい雁鳴の旭洋　末
仰ち倒まの呑こ風く　苑
又こまぐ世ま點の先　伴
ちまこんうまく集る葉の葉　裔

鞭朝の宮殿きよく掃部宿以
是見るくきい之蛟の艷まま
大ひ〳〵寒の温ふ寒の奇花
出佐の便宜い帆みちる仲
きふ又つくり蟠るやとの峯況
峠〳〵ども〳〵鉦しき坊以
位訓〳〵袁い月松の出詩仲
蜀黍のふくき〳〵の間府

ウ
ふ〳〵の松竹も初〳〵と滝の雪ま
行き況りの〳〵侍人〳〵況
もの窟もう〳〵ふ魚の雲以
法〳〵い見る鋤の焼市府
この沈い傘をうれ〳〵雪花
ふ〳〵い和を彩れき鳥仲

歌仙

さゝり葉かりし嵐の音さへ　沾徳
うゝすゝしき雨のあと　春来
あらはれし月に緑さゝむ心　長梢
つゝみ帯なる乃再従者かな　故一
月の反面をなし紐を結ぶ　祇亜
陶とかまとして中段　水路

車屋を高のれんにて
ぬぎ捨て弥陀と月出る
竿回る桜の側より妹出て
鶯の鳴くを聞
入りくる夕日に隅ふりまく道
花ぞ咲けるくいらつかり
雲雀鳴きて春一袋
十二日ゆく遍いくら年一

初時雨宮の八時の月ゆかり
負くるまて蛙なくれ
もるを知り掃もとれの上
雀の雪とも青くと鳴
ゆ目の茶ゆ行ぬ碗
雨ふ花けくるかる一
小千年下の蔵の木の森
永ふ鳴く普請場の

はけ使者よりつてはる信男　一
きつまりつさの煙る高はし　猶
疫病小細布の蟬乃長ゆう　丞
はけしさこゝろ女房の袖　末
姫元の名をつゝみ月の雲　猶
打算山よ信いはれ　丞
秋くうふ夏の分繰ふ猶　末
二条判ぶつさき代の金　一

ウ
物と咲ふ額と見る帆ケ船　路
戸棚くはけふ鶴乃　埒　猶
正面ハみくしわらゝ雪の信　一
物ゝ新温泉場のむす　末
味林酒ゝ留のゝも雪　丞
ゝ雷小牡もゝゝ　猶

歌仙

黄雲ちらす夕の名残哉　嵐雪
月の関ふる詩よ渡る山　春来
かり鞋埃をとゝ抱えて　斗南
男しらしいしらしらら　渭北
うゝ長るるの色と帰りて　茅仲
ゆくゆくと十年の犬　故一

ウ

貫板の幸より勝る音を少　和唐

しい茅貸沈丹波の織　茅舟

色のうつる地を産といふて社　寸

青ようくもれ撥ひの色　南

味道具もう異の富の所　小

うまれうつる牧を握る色　仲

花若葉ひろうすのれうま　一

吸地ゆまるる品持の多　唐

うつうつと眼病のうつくしう霞の屋　舟

地義と文一れ上京の角　一

星屋の月沈茅れを浮く半　仲

桐と茅屋のふうりくと　寸

形の種の光のうべうつる色　唐

折らうつる紙も茅のうつる雲　小

紙嵐のうちうつるうの高　南

多武峯うつる紙で呼ふ　沾耕

ゆるぎなく巻乃備まき耕
ら胡麻しを前の飯まま
ゆきまくまく船乃斤まま漕舟
る居ら建くに日ま成小
図西も長門ま毎のつまま寿
ちいさい雲つ陸ま系畑仲

ゆるぎなく見まほしき石竹仲
行ふ清くまま尼の膝まて一
とのくぬ山乃つまきまみてま舟
きのまま松の煙台のうち煙南
三人持乃竹まもも寿
おくりの来濃ま月ま朝鳥小
ま来居くまる秋風南

歌仙

ゆくすゑや何かとゝ問る海苔の味　其角

はるしれの猶もとゝまる月山　春来

日の脚も冬の二日を待尾わく　民峨

おし茶ん盛月のかゝく　和尊

ものゝ初穂れかるゝ　羊雨

星さのゝゝ蝶ゝゝ　巨洲

善光寺川中嶋へ宇[illegible]　采伸
[illegible]　采舟
[illegible]飯の朝ゆふ
[illegible]
[illegible]
[illegible]園の撫物　雨
高巖人ふ[illegible]　[illegible]
[illegible]　哦
[illegible]　舟
[illegible]道
[illegible]　伸

出[illegible]紙[illegible]　測
[illegible]
[illegible]の[illegible]　雨
[illegible]　[illegible]
[illegible]　哦
[illegible]　測
[illegible]　伸
[illegible]　舟

寺くのまもるのくまの鐘の声　当
鳴やとく春とつゝ鐘のくく　峨
あつまの生行くまくゝ源氏　末
箱川後のうくゝ紀封ゝ目　雨
松の寄る須の振もうくを　舟
月代くゝ如れ古河の鯖　仲
焼米ハ米うくゝ紀答る　閑
俵藤太うくゝ栗ゆくく　当

壺の金撫の下かうくゝ　仲
面う持うくまるゝ船の端　末
鶯くくしくゝ鳴くゝる　峨
千くつまるゝハ土持の兵　雨
何所まくも樓船くゝ紀の上　閑
月くけと英の五尺三尺　執筆

歌僊

名のはなのぬふてふさくら　湖春

きのふ雨のしるやうめ　春來

蒸の田植の後よ菓うりて　青都

鍋の戰いもうんとも　故一

月の夏ふて酢豆のわりひ　米仲

ぜいをきりて差作のみ　都

[illegible]屋の[illegible]　　末
[illegible]文[illegible]紙[illegible]　　仲
[illegible]　　一
[illegible]二百[illegible]　　末
[illegible]　　都
[illegible]　　一
[illegible]今朝の秋　　仲
[illegible]前の[illegible]　　都

景政の宮ふ[illegible]　　末
[illegible]の小[illegible]　　仲
[illegible]　　一
[illegible]　　末
[illegible]　　都
[illegible]　　一
[illegible]　　仲
[illegible]　　都

なてこの御料の錆ぬぐふ　ま
九郎の柱　一ツ　仲
四つ〻の手鳥　すしまる九鏡　一
きくの花うつの荒神の旅　ま
桃灯ハ遊女半月の間　都
うめうの枯ゆくもの花中　一
の字時付飯とよまれら　仲
浅下法ハ例と本法のぐま〻〻

ウ

唐風品の脊を馬ハのそのれて　ま
見ものの鏡乃くもま　都
筆ハ〻ぬ箱ハ鉄拍いれて盆　仲
道中何を新と表や〻　ま
芝をひく猫よめ　ハの張　一
なるる海苔の鏡ま　都

寄仙

みしきの小山を見やるうち柿葉　青雲

くれゆくや麻の間さぐる小舟　春来

雑の日陽の時雨合も森すゝよ　催耕

掛板をつゝみ海棠もあり　栖鶴

後ゝ七夕小十騎流のゝ　吉義

つゝらゝきれゝ蝉の行道　祇空

ウ

一日に吟く桜をちらす風　芦仲
誰招くらん曼荼羅のお　催耕
人麿のとられ和海吼して　素丈
登りかゝりの風目流し月　春義
家をらの顔そらうしき三世相　柳鴻
おかあつまれ九つの鐘　芦仲
くゝ閨にさゝ卯の尖丸細りし　祇丞
雲の峰てし南わら風を　無為庵

二荒はわすれぬ井の飛泉　素丈
御飛の裏わしろの上書く　祇丞
月露ひ色絶と道八しらまれく　無為庵
ナ
つけうしくうりの鶴を抱く　催耕
春雨はさらね先去ら杖柱　春義
卿りうむ飛車の音の高さよ　柳鴻
川の口きゝみあまやとあきらん　祇丞
仲くるまね御嶽精進　無為庵

如[illegible]賣代家の[illegible]
[illegible]
洗[illegible]金を[illegible]の出用[illegible]
[illegible]
風の[illegible]山[illegible]織の[illegible]
[illegible]
盤[illegible]
田舍の者[illegible]

僅耕
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

所の秋をかりの[illegible]
さめうとおもきを[illegible]
千万の小[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

僅耕
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

寄仙

古杉風

屋のうへ船上師櫻散ふるう
朔の今下るも鮫の春風　春来

いやしいう大の噌を惜らむ　臺菁

ゆとりなふ打霧の月　湄仙

一酒のうふ音の海の音　羽卒

振るう日の草の蒸　常仙

むし今秋迄に師の名ふる事
孔雀の樹蹠朝日みる事
とくふるの切るる面の細流
もあり所所の半節
蝶の翅ふる鶯
脚のトぬく月
孔雀社南北の小六月
外ものなく風吹

辛
小
仙
辛
小
仙
辛
小
仙

撞鐘ふ鐘の三ふる所の口
秋ふ高ふ隠文
初月の月ふる科理人
ふの建ふ若しの道
稲の長ふ東ふ
大ぶふ若ふ
四畳ふ光ふ
蓮生ふ西ふ

辛
小
仙
辛
小
仙

九山の果ハ尾の黒きまゝ　菅
年数舟よ[illegible]　素
[illegible]雨い[illegible]の[illegible]　辛
[illegible]る[illegible]　小
一[illegible]生き[illegible]の京　仙
葉硯の[illegible]と嘗る[illegible]帝　菅
客[illegible]の[illegible]月冷し　素
[illegible]のまぐ[illegible]　辛

ウ
[illegible]　小
伯母の[illegible]中[illegible]住　仙
[illegible]　菅
毎[illegible]見[illegible]の図雨　素
[illegible]馬上の[illegible]雨　辛
[illegible]の[illegible]　小

歌仙

夏たつ日雪ふる深と富士の山　東順
酒もまさるか花とさく魚　春来
燭臺乃能所ふるく　大雪
うゝね土圭ふるや月と立也　埃菴
朝風に鶉ちる月部屋　東壁
茅雑のうゝ枯乃果　虚白

晋子父

柿山より大ふ[illegible]　旨原
[illegible]のんやとそれ[illegible]　大雲
[illegible]　春来
紅粉青蛾[illegible]　東碩
蓋未立春屋の下に根[illegible]　坡居
[illegible]の[illegible]ぬ所人　旨原
月の宵掃けや茶枝の削り屑　雷白
園扇を猶[illegible]燒[illegible]　大雲

[illegible]羊[illegible]　東碩
鐘の供[illegible]　雷白
[illegible]の上　坡居
今[illegible]の秋　春来
[illegible]　東碩
[illegible]　旨原
[illegible]万騎の[illegible]　雷白
[illegible]　坡居

[illegible]人の住居も冷まじく荒れ渡り　春来
[illegible]　廣白
[illegible]紙に俳諧の人の新しう　旨原
[illegible]　東碧
[illegible]紙帳か風のうちうち　廣白
[illegible]月の出川　春来
渾泉[illegible]地獄の物語　後唐
悔し[illegible]　大雪

[illegible]蓋か雪の貢を持て[illegible]　廣白
一[illegible]　東碧
[illegible]　大雪
筆[illegible]　後唐
[illegible]　旨原
[illegible]　鎌八　鎌
[illegible]　萬立

加ちしも

猪もまつの木ぬれて秋の初霜　遊女高尾

どの神かの城寄ゝし月　春来

焚ゝ[illegible]所の蚤ひやうふ　百宇

もゆるとき[illegible]ね鼓ゝ[illegible]　栢莚

[illegible]　木仲

灯の[illegible]　詠子

輪ん[illegible]ふ[illegible]ま
別[illegible]を納[illegible]の声　宇
山[illegible]ふ中う[illegible]ト[illegible]子
ら先[illegible]く古き百姓件
皆ふ池[illegible]倉堂ふ[illegible]遊
[illegible]ふ[illegible]ま
[illegible]ふ[illegible]暗[illegible]の日　買明
躍つ[illegible]者[illegible]の子

[illegible]ら雨[illegible]敷　宇
四市[illegible]遊
[illegible]ふ[illegible]子
堰[illegible]件
ナ
川[illegible]都の[illegible]遊
[illegible]宇
[illegible]の飯八十[illegible]親[illegible]ま
今度の[illegible]進日吉[illegible]子

湖の[illegible]とんでふ小松明　伴
[illegible]白[illegible]す白[illegible]　迷
[illegible]針の[illegible]る雪の宮　小
江戸を指[illegible]　ま
[illegible]　子
[illegible]　宇
[illegible]　伴
朝臣志やん[illegible]　ま

[illegible]鈴の[illegible]押乃霧[illegible]　宇
煙[illegible]　家
時[illegible]雑[illegible]伊母の[illegible]　子
雪の[illegible]震[illegible]星　伴
[illegible]　迷
[illegible]　執筆

歌仙

何人か[illegible]ぬかよりとまりて和　忠知

川清く[illegible]馬　春来

幕の穴[illegible]風のかろもく、

可[illegible]乃伏せのもんし　青郊

[illegible]ハ曇てぬ行月秋、

行[illegible]く之線　来

ウ 磯のあるうへに衣うち敷きて　郊
海山をへだてて貧しき宿　ま
移香の人に惜しまれる　郊
女うち貸しけるうすぎぬ　ま
宿をとりかへの煙掛　郊
さしぬきの小金東金　ま
口紅の長くなるまで石佛、
さきられうの灯のもとに　曉　郊

二月東に帰る雁は春の時鳥、
待つる声の聞かるる月の落るまで　ま
敲くと聞きしは、　郊
一荷の雪ふるさとの人の
くるしき遠国の風を恨む色　ま
かりあつめる数多　郊
墨絵の鍬かな鬼い指まで　ま
河音清のかけはかなかな　郊

五十年やまどふまの爪きる　ま
天竺舟し寺のしるしけ　郊
唐伝に鑿のわさうの狩ありく　ま
子しらりふみくるか裸虫　郊
追はれへおくれたしき濡る也、
ら世る法師しいのふしろう　ま
月ふる並ひて寒し周の末、
書と徳するん衣の噴　郊

厭やりしきる倖の講遊几、
世をし給きるの心侭の日ハ　ま
山門に許されしとぞ表しき、
車に積んで登さしけり　郊
乱き入る時の觸わく花の苗を、
やむかうのましてこ月こそ皆　ま

歌仙

[illegible] 冠里子

[illegible] 春来

海原の何里[illegible]の[illegible]千里子

つ[illegible]社信も棟　巨洲

万葉の[illegible]　瑠輝

[illegible]も月の梅の唇　亘通

ウ 玉葉接續の元四年五月廿五日

十船の大小船ども

財徳の所々

押領と号して

多数船

牧士の胡麻賀を

ゝゝ小船頭

海苔の網三

旦調
法輝
宣通
千里
巨州
旦納
法輝
千里

階ゝ志ゝ

房風呂桶ゝ

ゝ紙風情の婚る物乃元

桶ゝ

ナ 四月廿四日入橋を表太まる

ゝゝ

押引ゝ判ゝ

池ゝ乃果

養
宣通
旦納
巨州
千里
養
巨州
法輝

月ゝ年ゝ行ぬ和ゝとゝや ゝ唄　素丸
ゆゝこゝ白ゝとゝさめぬゝ人ゝゝ　巨洲
ゝゝすゝこゝふゝ病人の乳細色　四通
黒ゝのゝゝ行ゝゝ箱乃七りゝ　千里
朝顔和六俗を和織ゝゝ　旦酒
月の雀乃篇ゝゝまれ音　四通
ゝゝ花乃ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　珈琲
ゝ志ゝ中ゝゝ舟のゝゝ岐　旦酒

ウ

歯の痛ゝ乃ゝゝゝゝ絵毛遊　千里
鏡別の詩ゝゝゝ鑑乃べて　素丸
人ゝゝゝゝ中乃ゝゝゝゝ撮閑　旦酒
ゝ間乃ゝゝゝ屋の蒸ゝ　四通
ゝ春ゝゝ三所ゝゝ花ゝゝゝ　巨洲
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　珈琲

歌仙

鳥小蓑ゝ蛙ゝわする椿ゝ邨　桃隣

春山暮ゝ色　春來

綿入の係ハひゝくゝくゝくゝ　一羅

犢ゝゝ道をけゝめる　吹洲

朝ゝ日ハ冴ゝゝゝゝゝゝ杭　渭北

秋もしけゝゝ酉　義　石腸

ウ 同きうと寵業のうへの太子堂 洲
代変の名ゆ日よりつたい 注
ゑんさいちりゆやとしき挿花 末
食こてうすう入梅の初草 小
うへの雛別高の紫つ花 腸
今よ田舎の徐い辰を助 末
のむあうくく鶯の新日 小
中の口うこ花ゆ大枝 洲

ウ 山吉の内より辰の指を打 注
うてしゆや日の見てぬく長 末
奉納ふ表の車をとゆ 腸
うの月の上の赤徳記をとむ 小
ナ 若元うく辰時しゆ音を 注
錦雑島よう市もうう 洲
松風い江漢の変を吹の 末
渦舟のきつほうく 腸

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

行仙

東潮

春來
百峨
羊仲
故一
峨

吹すま洲崎の磯の荒り地　来
味みくい欽屋つまるき　一
ものの山後の酒ものの　仲
醫者のやうな何る庚申　来
傘をは又昌の梅嶽と　峨
建角井の昌の打波の町　仲
岡西荷を行るる　盲馬　一
月ある色い黄も志ぶて　峨

忘日ものも維盛の酩酊ものの　来
四ものいの也持の温　一
船場と鏈いの　仲
ものかの城氏呑口の祢ら　来
こ飯いものふ　峨
竹鏈の田の神　仲
ものの子後ねの　一
四ものの　峨

朝鮮へ貨盧の金ハ返すまゝ架　来

敷しさハのしきあまりゆら供　一

きのふまて楮花さくきかさ餅　仲

高簾色うすくしき散銭　来

冷竃円日和の枝燈うらのく　峨

一きハ鷺の丸くしと月　仲

雉堂ハ前を曲り形り　一

三蓋けしし暑の錦查　回

ウ

けさの家のあまりハ行ふ虎　来

ほ紫箱ともしゆのうち淀く　峨

人形をうしこ泊せて思り　回

負れくよれ舟の老波　来

賣屋ハ実花復籍ハみるのう　仲

めくるきしくてさ華原の雉　一